

山と博物館

第20巻

第9号

1975年9月25日

大町山岳博物館



秋祭り (大町市常盤一本木神社にて)

撮影 丸山 雅弘

山想閑話

その頃は夏になると徳本峠を越えて上高地に入り、幕営した。一週間十日の生活は山へ登るか絵を描くか、気ままなものであった。日中はひっそりとしていて、時折、どこかのテントキーパーが薪割りでもしている音が聞こえるくらいであった。

ある夏、私の天幕のすぐ近くに一人で幕営しているおつきさんがいた。毎朝簡単な食事をすますと絵の道具をかついで何処ともなく出かけ、夕方帰って食事をすますとすぐ寝てしまふので、話をかわすようになったのは何日か経ってからだった。大阪の高校の先生で八月一杯はがんばる。思うようにならず苦労している。職場では影のうすい存在にならなければ絵は描けない。ーなどと話していた。

私も毎日ウェストン広場で四十号の霞沢岳ととり組んでいた。もちろん安井曾太郎の霞沢岳には及ぶべくもなかったが。十日ほどがんばり、先生に別れを告げ、なま乾きの大作をサンドイッチマンのようにザックの後にしばりつけ、ボタンボタンさせながら再び徳本を越えた。

翌年七月、生徒を引率して燕岳に登った。中房までバスが入っていなかった頃で、長い道程をそろそろと歩いた。私は先頭で中房温泉も真近になった林の中をいくうちに木立の奥に画架を立てている人が見えた。何か親近感を覚えながらだんだん近づいていくと、あの大阪の先生だと気がついた。先頭を同僚に頼み思わぬ再会を喜んだ。一去年は、あれから月末までいた。体力も大分消耗し下山の時はこたえた。帰る直前になって突如インスピレーションが湧き一気に描きあげた作品を独立美術展に出品し入選した。お互いに元気でがんばりましょう、と言って別れた。

それっきりである。
自然保護だの公害だのということばを耳にしなかった頃はなしてある。

(長野県山岳総合センター)

金光義朗)

雪倉岳の植物

横内 齊

白馬岳の北方の眼下にドーム状の山岳がある。麓から頂上まで緑衣をまとったように全山草木におおわれている。私は白馬の頂上に立つ度にこの美しい山に魅力を感じていた。それが雪倉岳(二六一〇・九m)だと知ると、その山名に引かれて、一層登高意をそえられる。

機会を得て去る昭和四十三年の夏、この山にわが子三人を伴って登った。まず蓮華温泉に一泊し、山上鞍部の無人小屋に二泊して、その所産の植物を調べた。この山は白馬岳の続きという所から、国の名勝、天然記念物に指定されており、しかも特別区域内なので、その許可を得るのに非常な苦心をした。当時本県の観光課、長野営林局、前橋営林局、高田営林署、新潟県庁観光課の各係員の努力によって採集許可証を下付された。第一日は蓮華温泉に草をとりながら直行し、第二日は登山道と雪倉岳と更に白馬岳よりの鉢ヶ岳(二六二〇・〇m)を探り第三日も大体同じ事に費し、第四日は白馬大池を経て下山した。一回だけの調査でそれも主として山頂部だったので、物足りないものがある。それにその年の暮の十二月の終りに、私は脳の病いに倒れ意識不明となったので再調査など思いもよらない。以下当時の記録を主として同山の植物を記して見ることにする。

蓮華温泉からの登山道は平凡の一言につきる。大きな起伏もないやや上り気味の平坦な道が続く。道の両側はブナの純林であるが、背丈は大体四m内外で楕円は水平をなしている。やや高い所から眺めるとブナの均一化した平らな面が広がる。その下草は大体日本海地域系の灌木や草本である。このブナの姿はこの地方の積雪と関係があるだろう。

この山は針葉樹の発達はきわめて悪い、いきなりダケカバ帯でそれが終るとハイマツ帯に連る。残雪は多い。ハイマツは二三〇〇m付近から初まるらしい。山中を細い登山道一本が通っているだけで、山は荒れていない、ユキクラヌカボ、ウルップソウ、コマクサ、ハクサンコザクラなど至る所にびっしりと生えている。明治時代の山に入ったような錯覚さえ覚えてなつかしい。どうぞこれ以上開発の入らないように祈る。

雪倉岳産植物目録

- シダ植物
 - ハナワラビ科 フユノハナワラビ ミヤマハナワラビ ヤマハナワラビ
 - ナワラビ
 - キジノオシダ科 ヤマソテツ
 - オシダ科 イヌワラビ ウサギシダ オオメシダ オクヤマワラビ オシダ カラフトメシダ クマワラビ シラネワラビ ジュウモンシダ シノブカグマ タカネサトメシダ ミヤマメシダ リョウウメンシダ チャセンシダ科 ハクモウイノデ
 - ウラボシ科 ミヤマノキシノブ
 - ワラビ科 クジャクシダ ワラビ
 - コウヤワラビ科 イヌガソク
 - シシガシラ科 シシガシラ ミヤマシシガシラ
 - ゼンマイ科 ゼンマイ
 - ヒカゲノカズラ科 オニトウゲヒバ コスギラン タカネスギカズラ タカネヒカゲノカズラ ヒカゲノカズラ
 - イワヒバ科 タチクラマゴケ

- 種子植物 裸子植物
 - イヌガヤ科 ハイイヌガヤ
 - モミ科 アオモリトドマツ カラマツ コメツガ シラベ ダケモミ トウヒ
 - マツ科 キタゴヨウ ハイマツ
 - ヒノキ科 クロベ
- 被子植物 双子葉植物 古生花被植物
 - ヤナギ科 イヌコリヤナギ オノエヤナギ カワヤナギ カラフトヤナギ キツネヤナギ
 - ギバツコヤナギ ミヤマヤナギ
 - クルミ科 サワグルミ
 - カバノキ科 ウダイカンバ シラカンバ ダケカンバ ミヤマハンノキ ヤハズハンノキ ヤシヤブシ ヤマハンノキ
 - ハシバミ科 イヌシデ
 - ブナ科 ブナ ミズナラ ミヤマナラ
 - イラクサ科 アカツ ウワバミソウ ミヤマイラクサ
 - タデ科 イブキトラノオ オンタデ オヤマソバ オオイタドリ ケイタドリ スイバ
 - タカネスイバ ミヤマタニソバ ムカゴト
 - ラノオ メイゲツソウ
 - ナデシコ科 イワツメクサ クモマミミナグサ クモイナデシコ コバノツメクサ シ
 - ナノナデシコ シラオイハコベ タカネツメクサ
 - フサザクラ科 フサザクラ
 - カツラ科 カツラ ヒロハカツラ
 - キンポウゲ科 クサボタン ゴカヨウオウレン シギンカラマツ ツクモグサ ハクサ
 - シイチゲ ハンシヨウツル ミヤマカラマツ
 - ツル ミヤマキンポウゲ ミヤマハンシヨウツル モミジカラマツ ヤマキツネノボタ
 - ヤエミヤマキンポウゲ
 - オダマキ科 オレインソウ オチクララ
 - キンバイソウ サラシナシヨウマ
 - ナノキンバイ ツルレイジンソウ ハクサンチドリ ミヤマトリカブト ミツバオウレン ヤマトリカブト リュウキンカ
 - イヨウシヨウマ
- ミヤオソウ科 キレハサンカヨウ サンカヨウ
- ウ シラネアオイ マルバサンカヨウ
- モクレン科 タムシバ ホオノキ
- クスノキ科 オオバクロモジ
- エンゴサク科 コマクサ
- アブラナ科 イワハタザオ ウメハタザオ オオバタネツケバナ クモイナズナ ミヤマガラシ ミヤマハタザオ
- モウセンゴケ科 モウセンゴケ
- ベンケイソウ科 イワベンケイ ミツバベンケイ ミヤママンネングサ
- アジサイ科 イワガラミ ゴトウヅル ノリウツギ ヤマアジサイ
- ウメバチソウ科 ウメバチソウ
- ユキノシタ科 クロクモソウ ケダイモンジソウ スダヤクシユ ツルネコノメソウ
- トリアシシヨウマ トウホクダイモジソウ
- ヒメクモマダクサ フキユキノシタ ミヤマチダケサシ ヤグルマソウ
- スグリ科 コマガタケスグリ
- マンサク科 マルバマンサク
- シモツケ科 アイズシモツケ ウスゲオニシモツケ シモツケソウ ヤマブキシヨウマ
- モツケ シモツケソウ
- バラ科 オオダイコンソウ カライトソウ
- キジムシロ クマイチゴ ゴヨウイチゴ
- シロバナヘビイチゴ タテヤマキンバイ
- タカネイバラ チングルマ チョウノスケ
- ソウ ノウゴイチゴ ベニバナイチゴ
- ヤマキンバイ ミヤマダイコンソウ ユキクラトウチソウ
- サクラ科 ウワミズザクラ タカネザクラ
- ナシ科 ウラジロナナカマド タカネナナカマド ナナカマド
- マメ科 イワオウギ オヤマノエンドウ
- ロツメクサ タイツリオウギ
- カタバミ科 オオヤマカタバミ コミヤマカタバミ
- フウロソウ科 グンナイフウロ シロバナグンナイフウロ ハクサンフウロ
- ミカン科 キワダ
- ユズリハ科 エゾユズリハ

- ウルシ科 ツタウルシ スルデ ヤマウルシ
- カエデ科 イタヤカエデ ウラゲエンコウカ
- エデ オガラバナ コハウチワカエデ コ
- ミネカエデ テツカエデ ハウチワカエデ
- トチノキ科 ケトチノキ
- ツリフネソウ科 ツリフネソウ
- モチノキ科 アカミノイヌツゲ ツルツゲ
- ハイイヌツゲ
- ニシキギ科 クロツリバナ コマユミ サワ
- ダツ マユミ
- ブドウ科 ヤマブドウ
- シナノキ科 オオバボダイジュ シナノキ
- ツバキ科 ユキツバキ
- マタタビ科 マタタビ ミヤママタタビ
- オトギリソウ科 オクヤマオトギリ オトギ
- リソウ シナノオトギリ
- スミレ科 オオバキスミレ オオタチツボス
- ミレ キバナノコマノツメ スミレサイシ
- ン タカネキスミレ ツボスミレ ミヤマ
- ツボスミレ ミヤマスミレ
- ジンチヨウゲ科 カラスシキミ
- アカバナ科 アシボソアカバナ アカバナ
- ケゴンアカバナ コアカバナ ミヤマタニ
- タデ ミヤマアカバナ
- ウコギ科 コシアブラ センノキ トチパニ
- ンジン ハリブキ ミヤマウド
- セリ科 アマニユウ イブキボウフウ エゾ
- ニユウ オオハナウド オトコゼリ オオ
- バセンキユウ シラネセンキユウ シラネ
- ニンジン タカネイブキボウフウ ノチド
- メ ハンサンボウフウ ホタチサイコ ミ
- ヤマシシウド ミツバ ミヤマゼンゴ ミ
- ヤマウイキヨウ ミヤマトウキ
- ミズキ科 ゴゼンタチバナ タカネミズキ
- ハナイカダ ミズキ
- 後生花被門
- イチヤクソウ科 ウメガサソウ ギンリヨウ
- ソウ ベニバナイチヤクソウ マルバイチ
- ヤウソウ
- ガンコウラン科 ガンコウラン
- リヨウブ科 リヨウブ
- ツツジ科 アカモノ アオジクスノキ アオ
- ノツガザクラ イワナシ ウラジロハナヒ
- リノキ オオバコメツツジ オオバスノキ
- キバナシヤクナゲ クロウスゴ クロロマメ
- ノキ コメツツジ コメバツガザクラ コ
- ケモモ コシノハナヒリノキ コツガザク
- ラ コバノクロロマメノキ サラサドウダン
- シラタマノキ ツガザクラ ハナヒリノキ
- ベニサラサドウダン ホツツジ マルバウ
- スゴ ミヤマホツツジ ミネズオウ ムラ
- サキヤシオツツジ ヤマツツジ
- イワウメ科 コナスビ シロバナハクサンコ
- ザクラ ツマトリソウ ハクサンコザクラ
- モクセイ科 トネリコ ハシドイ ミヤマ
- ボタ ヤチダモ
- リンドウ科 イワイチヨウ オヤマリンドウ
- ツルリンドウ トウヤクリンドウ ハナイ
- カリ ミヤマリンドウ
- ナス科 ホウズキ
- ムラサキ科 タチカメバソウ ミヤマムラサ
- キ
- シソ科 イワジヤクソウ エゾシロネ
- ロバナヒキオコシ シロバナヤマホタルブ
- クロ ジャコウソウ タテヤマウツボグサ
- テンニンソウ トウバナ ナツノタムラン
- ウ ミヤマトウバナ ヤマククルマバナ ヤ
- マトウバナ
- ゴマノハグサ科 ウルップソウ オオバミソ
- ホウズキ オニシオガマ クガイソウ シ
- オガマギク タカネシオガマ トガクシコ
- ゴメグサ ミヤマクワガタ ミヤマゴメ
- グサ ミヤマシオガマ ヨツバシオガマ
- スイカズラ科 オオヒヨウタンボク オオカ
- メノキ ケナシヤブデマリ タニウツギ
- ニワトコ ミヤマニワトコ リンネソウ
- オミナエシ科 ハクサンオミナエシ
- マツムシソウ科 タカネマツムシソウ
- ウリ科 ミヤマニガウリ
- キキョウ科 イワギキョウ シロソバナ シ
- ロバナハクサンシヤジン シロバナヤマホ
- タルブクロ ソバナ タカネツリガネニ
- ジン ツルニンジン ツリガネニンジン
- バソブ ヒメシヤジン ヤマホタルブク
- 口
- キク科 アキノキリンソウ ウサギギク エ
- ゾムカシヨモギ エゾタンボク オタカラ
- コウ オオカニコウモリ オオノアザミ
- オニアザミ オクノカニコウモリ? カニ
- コウモリ ガンクビソウ カンチコウゾリ
- ナ キクバジシバリ クロトウヒレン ゴ
- マナ コウゾリナ サワアザミ シロバナ
- ハナニガナ シロバナクモマニガナ シロ
- ウマウスユキ セイヨウタンボク タチア
- ザミ タイミンガサ タカネヨモギ チシ
- マヨモギ チャボヤハズトウヒレン タカ
- ネニガナ タカネコウゾリナ タカネヤハ
- ズハハコ ニガナ ノッポロガンクビソウ
- ノリクラアザミ ハンゴンソウ ハバヤマ
- ボクチ ハナニガナ ヒヨドリバナ ヒト
- ツバヨモギ フキ マルバダケブキ ミミ
- コウモリ ミヤマコウゾリナ ミヤマアキ
- ノキリンソウ ミヤマアズマギク ミヤマ
- タンボク ミヤマオトコヨモギ ミヤマコ
- ウリンカ メタカラコウ モミジハグマ
- ヤマハハコ ヤハズトウヒレン ヤマヨモ
- ギ ヤマニガナ ヨブスマソウ ヨツバヒ
- ヨドリ
- 単子葉類
- ミクリ科 ホソバタマミクリ
- タケ科 チシマザサ
- イネ科 オオアワガエリ オオヒゲナガカリ
- ヤスモドキ カリヤス カラフトドジョウ
- ツナギ ケチチミザサ コミヤマヌカボ
- コシノネズミガヤ スズメノカタビラ タ
- カネウシノケグサ ヌカボ ヌマガヤ ヒ
- ナノガリヤス ヒゲノガリヤス ホッスガ
- ヤ ミヤマドジョウツナギ ミノボロ ミ
- ヤマヌカボ ミヤマコメススキ ミヤマア
- ワガエリ ミヤマアブラススキ ムラサキ
- ススキ ユキクラヌカボ
- カヤツリグサ科 アシボソスゲ アイバソウ
- イワスゲ オノエスゲ オニナルコスゲ
- オオカワズスゲ カワズスゲ カサスゲ
- キンズゲ キンチヤクスゲ クモマシパス
- ゲ シロウマスゲ タカネクロスゲ タガ
- ネソウ タカネシヨウジヨウスゲ タヌキ
- ラン タカネシヨウジヨウスゲ ハガク
- ヨウスゲ ナガボノコジュズスゲ
- レスゲ ヒメカワズスゲ ヒカゲハリスゲ
- ミノボロスゲ ミヤマカンスゲ ミヤマシ
- ラスゲ ミヤマクロスゲ ミタケスゲ
- サトイモ科 ウラシマソウ ミズバシヨウ
- イグサ科 エゾホソイ コウガイゼキシヨウ
- タカネイ ヌカボシソウ ミヤマヌカボシ
- ソウ ミヤマイ ミクリゼキシヨウ ヤマ
- イ ヤマスズメノヒエ
- シユロソウ科 コバイケイソウ タマガワホ
- トトギス タカネアオヤギソウ チシマゼ
- キシヨウ バイケイソウ ヒメイワシヨウ
- ブ フナシタマガワホトトギス ムラサキ
- タカネアオヤギソウ
- ツルボラン科 イワギボウシ イワシヨウ
- オオバギボウシ キンコウカ コバギボウ
- シ ショウジョウバカマ チャボゼキシヨ
- ウ トウギボウシ ニッコウキスゲ ネバ
- リノギラン ノギラン
- ネギ科 ギョウジャニンニク シロウマアサ
- ツキ
- ユリ科 ウバユリ クルマユリ コオニユリ
- ホソバコオニユリ
- スズラン科 オオバユキザサ オオナルコユ
- リ クロミノツバメオモト タケシマラン
- ツバメオモト ヒメタケシマラン マイツ
- ルソウ ユキザサ
- エンレイソウ科 キヌガサソウ クルマバツ
- クバネソウ ツクバネソウ ミヤマエンレ
- イソウ
- サルトリイバラ科 タチシオデヤマガシユウ
- ラン科 イチヨウラン オオヤマサギソウ
- オオバノトンボソウ キソチドリ クモキ
- リソウ コイチヨウラン タカネトンボ
- テガタチドリ トンボソウ ノビネチドリ
- ハクサンチドリ ミヤマチドリ

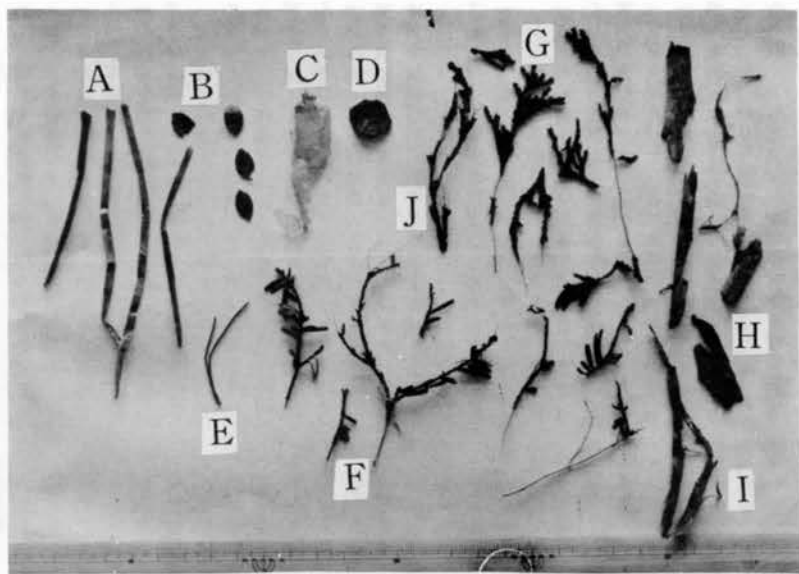
カモシカの胃の中から ビニール片が出た

宮尾 嶽雄

登山者や観光客によって、山中に棄てられる残飯類やビニール製品、空カンなどの量は、一体どのくらいになるものか、見当もつかないが、これらによって、山の汚染が進んでいることは誰の目にも明らかである。これが高

山へのドブネズミの進出を促し、野生動物の食性にも、大きな変化を及ぼしている。特に腐敗・分解しないビニール類は困ったものである。

輪ゴム、ビニール袋類、ハムやソーセージ



中房温泉附近で死んだカモシカ(♂)の胃内容物(1975年3月)。
A:イワノガリヤス、B:ハイイヌツゲ、C:ビニール片、D:ハム類を包んでいたと思われる合成樹脂製品の断片
E:アカマツ、F:コメツガ、G:ヒノキ、H:ツバメオモト、I:イワノガリヤス、J:クロベ

の包装に使われているポリ製品、金属片などは、タヌキ、キツネ、テンの胃または糞の中にしばしば発見されている。これらの動物が登山道やキャンプ場周辺で、かなり積極的に残飯類を食べていることが明らかである。こうしたことが、これらの個体群の将来に、どのような影響を及ぼすか予測はむずかしい。一九七五年三月に、北アルプス中房温泉附近(海拔一、五〇〇メートル)で死亡したニホンカモシカ(雄)老獣の胃内容物を調査する機会があった。死亡後、ツキノワグマに食い荒らされたらしく、内臓はほとんどなくなっていたが、第一胃は残されていた。胃内にはイワノガリヤスの枯葉、ハイイヌツゲ、ツバメオモトの葉、コメ

ツガ、クロベ、ヒノキ、アカマツの枝葉の七種が認められた。量的にはコメツガとクロベの枝葉が多い。

ところが、こうした植物のほかには、薄い黄色をしたビニール布の一片(巾25センチ、長さ7センチ)、ハムまたはサラミンソーセージの包装に用いられていたと思われる合成樹脂製品の一片(径1.5センチでほぼ円形)の二点が出てきたのは驚かされた。塩分が附着しているが、こうしたものを積極的に食べることは十分に考えられ、今まで見つけられなかった方が不思議なかもしれない。ビニール類をカモシカが食べていた例は、神奈川県丹沢山塊で一例が報告されている(山口ほか一九七四)。神奈川県足柄上郡山北町熊木沢(海拔八五〇メートル)で発見された雌の胃内から選別されたもので、ビニール片が塊状になって入っていたという(0.3グラム)。飼育中のカモシカは、しばしばビニール袋などをのみ込むというが、野外的カモシカが、ビニールのような不消化物をのみ込んでいたという例は報告されていない、と山口等は述べている。筆者は北アルプス南部一帯で死亡したカモシカ十二頭の胃を調査しているが、こうした例は初めてであった。しかし、このような事例が、今後続々発見される可能性はきわめて高い。

上田市の公園で飼育されていたニホンジカの例ではあるが、昭和四十五年に死亡した四頭は、いずれも胃内にポリ袋類が直径四十七センチもの塊になって入っており、これが死因であったという(金森、一九七四)。こうした死亡が、野生動物にも頻発するかもしれないのである。山地森林の破壊と汚染は、流氷や地下水の量と質の結果として、直接、人間生存をおびやかすことになる警告として、真剣に受けとめる必要がある。

(信州大学医学部助教授)

博物館だより

陳楚駐日大使一行来館

新潟・石川・富山の北信越地方の観光・産業を視察していた陳大使夫妻は9月5日、西沢長野県知事、大町県市長らの出迎えをうけ約40分間にわたって当館を見学した。

館長の案内でカモシカ・ライチョウも見学ライチョウははじめて見たとの事であった。(右より夫人・大使と説明する館長)



訂正 2019号、表紙下、低地での最長飼育日数は3年2カ月——飼育最長日数は4年2カ月(3カ月は山の上で)に訂正。

山と博物館 第20巻第9号
一九七五年九月二十五日発行
発行所 長野県大町市T E L 〇二二一
大町山岳博物館
印刷所 大町市下仲町印刷部
大糸タイムス印刷部
定価 年額四〇〇円(送料共)(切手不可)
郵便振替口座番号 長野二二二、二九三